

単元の学習課題
日常の中にある作られた「物語」について自分の考えをもとう。

本単元で育成すべき資質・能力

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めている。(C2)ア)	①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)	①これまでの学習を生かして複数の文章のそれぞれに表れている物の見方や考え方を粘り強く比較し、自分の考えを文章にまとめようとしている。

【単元のねらい】 筆者の考えを捉えた上で、内容を日常生活と結びつけ、日常の作られた「物語」に対する自分の考えをもつこと。

【目標】 文章に表れている作られた「物語」についての筆者の考えを捉え、日常の作られた「物語」に目を向け、人間、社会、自然などについて、自分の考えをもつことができる。

単元のまとめ

筆者の考えを踏まえて、日常の中にある「作られた『物語』」について考えたことを書くことができる。

主張を読み取るためには、それを支える具体例を手がかりにし、関連づければよいと分かった。また、図式化や思考ツールを活用すれば思考が整理できると分かった。**知**
 私たちの身の周りにも作られた「物語」はたくさんあり、間違った情報がそのまま真実となってしまうことがある。しかし、私たちの心がけでそれらを防ぐことはできる。周りにはたくさんの情報があふれているが、その情報を信じるのではなく、本当にそうだろうかと疑いを持って物事を見たり、相手の立場に立って考えたりすることが大切だと思う。**思**
 複数の資料をじっくりと読み、粘り強く資料を比較して考えることで、筆者や書き手の意図を読み取ることができ、それらを自分と結びつけて考えることができた。学習したことを意識して、相手のことをよく知ったり、真実を知ろうとしたりする気持ちを持ちたい。**主**

第7時

日常の中にある「作られた『物語』」について書いたことを伝え合うことができる。**思 主**

第6時〔本時〕

日常の中にある「作られた『物語』」について考えたことを書くことができる。**思 主**

第5時

複数の日常の中にある「作られた『物語』」を読み、筆者のものの見方・考え方を捉えて書くことができる。**思 主**

第4時

作られた「物語」を超えた先にあるものから、筆者のものの見方、考え方を捉えて書くことができる。

第3時

作られた「物語」の事例として「ゴリラ」の例を挙げた意図を捉え、筆者の考えとの関連を説明できる。**知**

第2時

筆者の考える作られた「物語」を捉え、その事例をまとめることができる。

第1時 単元の導入

大まかな流れを捉えるために、序論・本論・結論に分け、その理由を説明することができる。

【単元の入り口】 生徒の姿（予習時）

《初読の感想・考えてみたい課題》

世の中にある様々なことについて、それは本当に事実か、「物語」ではないかと考えることが大切だ。疑問をもつこと、常識を疑うことが大切で、真実をよく知るためには、「よく知ること」が大切だ。信じ込まないためにはどうすればいいのか、先入観を消すために何をすればいいのか、他にも作られた「物語」はあるのか、どのような社会を作ればいいのか、新しい生活と出会うためにどうしたらいいのか、今私たちにできることは何か、「物語」にどう対応するかなど、「物語」について考えてみたい。